

# 「学天則シンポジウム」実施報告

長谷川 能三\*

## 概要

東洋初のロボットと言われる学天則は、1928年(昭和3年)、大札記念京都大博覧会で初めて公開された。それからちょうど80年にあたる2008年、展示改装において学天則を復元・公開した。これにあわせ、学天則シンポジウムを実施したので、その内容について報告する。

### 1. はじめに

大阪市立科学館では、開館3周年の1992年にオムニマックス映画「大阪 The Dynamic City」を制作したが、その中で大阪の街の案内役として学天則が登場した。それ以来、この映画の撮影用に作られた学天則の小型模型を館内に展示してきたが、本物の学天則と比べると、大きさも2分の1程度、顔つきも異なり、動かすこともできないものであった。そこで2008年に、第3次展示改装に合わせ、実物大で実際に動く学天則を復元した。

もともと学天則は、1928年(昭和3年)、京都で開かれた大札記念京都大博覧会に大阪毎日新聞社が出品したものであり、東洋初のロボットと言われている。さらに、昭和産業博覧会や朝鮮博覧会などにも出展されたが、その後学天則は行方不明になってしまったと言われている。学天則を製作したのは、生物学者であり、当時大阪毎日新聞の学芸部顧問兼論説委員だった西村真琴である。

今回、学天則の復元と、2008年が学天則の公開からちょうど80年にあたるのを記念して、学天則シンポジウムを開催した。

### 2. 実施概要

日 時：2008年12月23日(火・祝)

13時～17時

場 所：研修室

参加人数：29名

参加費：無料

### 3. 内容

学天則シンポジウムの前半は、3名の講師による講演を行なった。講師と講演内容は以下のとおりである。

「西村真琴はどのような人だったのか」畑中 圭一 氏  
「学天則の時代－絵葉書等でみる当時の博覧会－」

大口 孝之 氏

「学天則の復元にあたって」長谷川 能三

畑中圭一氏は「地球は人間だけのものではない エコロジスト西村真琴の生涯」の著者である。学天則には西村真琴の思想がふんだんに盛り込まれており、西村真琴がどのような人物であったのか、貴重な話をしていただいた。大口孝之氏は映像クリエイターであるが、日本や世界で開かれた博覧会について詳しく、学天則が公開された大札記念京都大博覧会や、いろいろな博覧会で登場したロボットなど、学天則誕生の時代背景について話をしていただいた。また、長谷川は学天則の復元にあたり、学天則がどのようなロボットだったのか、その機構や意匠の変化等について話した。



写真1. 前半の講演(写真は大口氏)

\*大阪市立科学館 学芸課 学芸員  
hasegawa@sci-museum.jp

前半の講演が終了後、休憩を挟んだが、その休憩時間の一部を使い、今回復元した学天則の見学と説明を行なった。

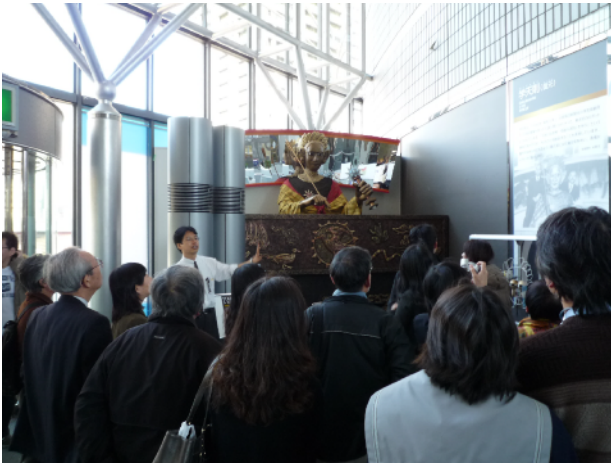


写真2. 復元した学天則の解説

後半は、前半の講演の講師3名に、西村真琴の孫にあたる松尾宏氏にも加わっていただき、西村真琴や学天則、時代背景などについて話を進めた。特に松尾宏氏からは西村真琴の家族ならではの話が出るなど、パネラーのみなさんの協力により、幅広い話の展開となった。



写真3. パネルディスカッション



写真4. 小型の学天則模型や関連資料

#### 4. まとめ

今回の学天則シンポジウムでは、年末の忙しい時期ということと宣伝不足もあり、参加者が少なかったのが残念であったが、講師・パネラーのみなさんの協力により、充実した内容となった。この場を借りて感謝申し上げます。



写真5. シンポジウム案内ポスター